

宮の郷木材関連施設見学会開催

平成27年6月16日、茨城森林管理署は民国連携の取組みのもと、宮の郷工業団地（常陸大宮市・常陸太田市）にある木材関連施設の見学会を行いました。

まず、日立造船（株）の木質バイオマス発電施設を見学しました。



この施設は現在建設中で、今年11月の本格稼働を目指しています。発電の基となるのは未利用材の原木で、燃料となる未利用材は約63,000t/年。日立造船（株）の担当者から詳しい説明を受け、職員もその原木消費量の規模に驚いた様子でした。

発電規模は、5,750Kweで一般家庭約12,000軒分になるとか。この規模で20年間稼働させるということです。そのための

〔ボイラー設備の説明を受ける〕

木材の安定供給は不可欠。

材も2mの長さの原木を必要としており、国有林へも大きな期待をしている、とのこと。



〔原木ヤード〕

続いて、中国木材（株）に移り、この工場の特徴であるラミナ製材工場で原木から製材までの工程を見学しました。

中国木材（株）では、内装に国産の杉のラミナを配置し、外側に強度のある米松のラミナを貼り合わせた、ハイブリット集成材という製品を製造しているそうです。

当工場での平成26年の集材では、国有林から21,900 m³のシステム販売（率にして全体の22%）を受け、平成27年は28,840 m³（全体の40%）を国有林

材から製材として受け入れる予定です。

大手住宅メーカーのほとんどがこの集成材を使うとか。この工場は一部の施設を除いて終日稼働しており、この施設でも木材の安定供給は欠かせないとのことでした。



今回の見学は、森林技術・支援センターの職員も参加し、また、茨城森林管理署の署内職員及び森林官・地域技術官が加わり約 40 名参加の見学会となりました。

〔担当者から説明を受ける〕

また、今回の見学会の意義は、川上から川下へ、を念頭に現場で業務に携わる職員の関心の深さがうかがえる一方で、国有林野管理経営にフィードバックさせる役割の必要性を改めて感じた見学会となりました。



〔製材工場内部の様子〕